

大学硬式テニスサークルへの参加動機—成人における運動実施者増加に向けて—

Motivation to participate in university tennis circles:

For increasing regular exerciser among adults

1K09A118-1 島田萌美

指導教員 主査 岡浩一朗先生 副査 中村好男 先生

【目的】

近年健康維持のために運動習慣を持つことの重要性が叫ばれているが、大学入学とともにそれまでの運動習慣を失ってしまう人は多い。大学時代に運動習慣を持てるかどうかはその後の運動習慣にも影響するため、大学生の運動・スポーツへの参加動機を探ることは運動習慣を持つ人を増加させるために重要である。大学生の運動・スポーツとの関わり方をみると部活動参加者に比べ、サークル参加者が圧倒的に多い。しかし、これまでの研究で大学生の運動部の参加動機や運動部とサークルの参加動機を比較したものはあるが、サークル内での参加動機を比較したものは多くはない。

そこで本研究では大学硬式テニスサークル参加者の硬式テニス経験年数や性別による参加動機の差を明らかにし、今後の運動・スポーツ実施者の増加や、それに向けた具体的な取り組み作りに貢献することを目的とする。

【方法】

早稲田大学硬式テニスサークル参加者 109 人（男 53 人、女 56 人）を対象にアンケート調査を行った。山本（1990）の研究で明らかになった参加動機の 7 要因（親和、自由、健康・体力、達成、回避、固執、社会的有用性）についての 25 項目の質問に対し、「全くそう思わない」から「非常にそう思うまでの」4 段階評定で回答を求めた。

参加動機について 4 段階評定順に 1、2、3、4 の得点を与え、数量化を行い、間隔尺度を構成するものと仮定した。山本（1990）を参考に参加動機因子を 7 つとみなし、各因子得点の平均値と標準偏差を算出した。また回答者を硬式テニス経験年数の中央値（4.00）を基準に経験年数の長い群と短い群の 2 群に分けた。各因子得点の平均値と標準偏差を経験年数による 2 群間で比較した。比較には t 検定を用いた。さらに参加動機のより詳細な差異を確認するために、質問項目と経験年数による 2 群間の比較をカイ二乗検定を用いて行った。以上 2 つの分析を性別による 2 群間でも同様に行った。

【結果】

1. 参加動機と経験年数の比較

各因子との比較では「親和」因子において有意差がみられ、経験年数の短い群のほうが長い群に比べてサークルで友人を作ることや、友人との関係を重視していることがわかった。質問項目ごとの比較においても「親和」因子に関わる質問において有意差がみられ、経験年数の短い人の方が友人関係を重視していることが明らかとなった。質問項目ごとの比較で

は「社会的有用性」因子においても有意差が生じ、経験年数の短い人の方がサークルでのスポーツ活動が実社会で役立つと考えていることがわかった。

2. 参加動機と性別の差

各因子との比較では「親和」、「健康・体力」、「固執」因子において有意差がみられた。3 つの因子全てで女性の方が高い値を示し、男性よりも女性の方が友人との関係や健康の維持・増進、サークル活動の継続を重視していることがわかった。質問項目ごとの比較でもこの 3 つの因子に関わる項目において有意差がみられた。

【考察】

本研究の結果から、経験年数の短い人は友人との関係やサークル活動が社会で役立つかを重視し、女性は友人関係や健康の維持・増進、サークル活動を最後まで続けることを重視していることが明らかとなった。この結果を踏まえ、人々の運動習慣を継続させる方法を考えていきたい。

経験年数が短い人や女性がともに友人作りや友人との関係を重視した点から、人々が運動習慣を持つためには一緒に運動・スポーツを行う友人の存在が大きな役割を果たしていることがわかる。これから運動・スポーツを始める人や女性には友人と気軽に参加できるようなスポーツの場が必要であると考えられる。女性の健康への関心が高いという結果からは、女性は運動・スポーツの健康への効果を認識すれば運動習慣を持つ可能性があることが示唆された。また女性は一度所属した団体は続けようとする傾向があることから、どこかの団体に所属した場合に運動習慣が継続されやすくなる。これらの結果から、人々に運動習慣を継続してもらうためにはスポーツクラブが大きな役割を果たすと考えられる。スポーツクラブならば友人と気軽に会うことができ、健康問題に訴えるプログラムの提供も可能である。さらに女性は辞めづらいという傾向があるので運動習慣が継続されると考えられる。

一方、本研究では経験年数が長い人や男性において大きな特徴が表れなかった。これらの人は運動・スポーツそのものの楽しさを感じやすいため、条件さえ合えば運動・スポーツを実施すると考えられる。使用できる施設を増やし、いつでも運動・スポーツが行えるような環境を整えていくことが重要である。